

(89号)

中国シルク情勢 (2018年2月)

日 絹 連

中国紡績品進出口商会在2月2日に2017年度の中国シルク貿易税関統計を発表した。全体輸出と日本向けの輸出実績は以下の通りである。

全体の生糸輸出は5,438,157kg(90,636俵)で前年同期比15.58%減少、平均単価54.69ドル/kgで同期比19.84%増加。

撚糸輸出は1,629,525kg(27,158俵)で前年同期比15.32%減少、平均単価58.64ドル/kgで前年同期比15.35%増加。

日本向けの生糸・撚糸・絹紡糸などの原料輸出は1,367,561kg(22,792俵)であり、前年同期比7.25%増加、平均単価51.22ドル/kgで同期比12.75%増加した。その中で撚糸は8,431俵であり、日本向けの原料輸出順位は2番目であった。

絹織物は4,386,891mで前年同期比6.06%減少、平均単価5.04ドル/mで同期比11.35%増加。絹織物の輸出順位は7番目であった。また、日本の財務省が1月末に発表した2017年度の通関統計と、ほぼ同じ数字となった。

1月23日の中国「嘉興日報」の報道により、嘉興星富桑苗生産基地が2007年以来、累計1,000万本以上の桑苗を日本、ウズベギスタンなどの8カ国へ輸出した。特に昨年的一年間でウズベギスタンだけで400万本以上が輸出され、“一帯一路”に貢献した。同日に浙江省徳清県農業局の発表によると、県所属「東慶蚕品種有限公司」が2017年的一年間で浙江農業科学院と協力して、雄蚕品種の種11.26万箱を海外へ輸出し、桑苗も32万本を輸出した。



2018年の中国旧正月は2月16日となり、嘉興、南寧両繭生糸取引所も2月15日～2月25日まで、取引休止となる。

1月、取引所の生糸繭相場は、毎日少しずつ上がってきた。特に2018.3.25渡しの21中3～4A生糸が52万元/トン(ドルに換算すると73ドル/kg)の相場となった。また、1月下旬から人民元対米ドルの為替が急速にドル安となり、生糸輸出価格も80ドル台に上がった。旧正月明けてからの相場がどうなるか、3～4月が正念場となりそうである。

以 上